



【問い合わせ先】

電話 045-211-1118

警備救難部環境防災課

課長 渋谷 卓矢（内線 3310）

平成29年2月24日

第三管区海上保安本部

第三管区海上保安本部管内における
平成28年の海洋汚染確認の状況について

～依然として人為的要因による油汚染の発生が目立つ結果に～

- ・ 『油』による汚染が36件で、確認件数の約9割を占める。
- ・ 『船舶』からの排出による汚染が29件で、確認件数の7割を占める。
- ・ 『船舶』からの『油』の排出による海洋汚染が確認件数のうち、『取扱不注意』『故意』といった人為的要因によるものが約5割以上を占める。
- ・ 海洋汚染に係る汚染物質及び排出源の割合は、過去5年間傾向に変化なし。

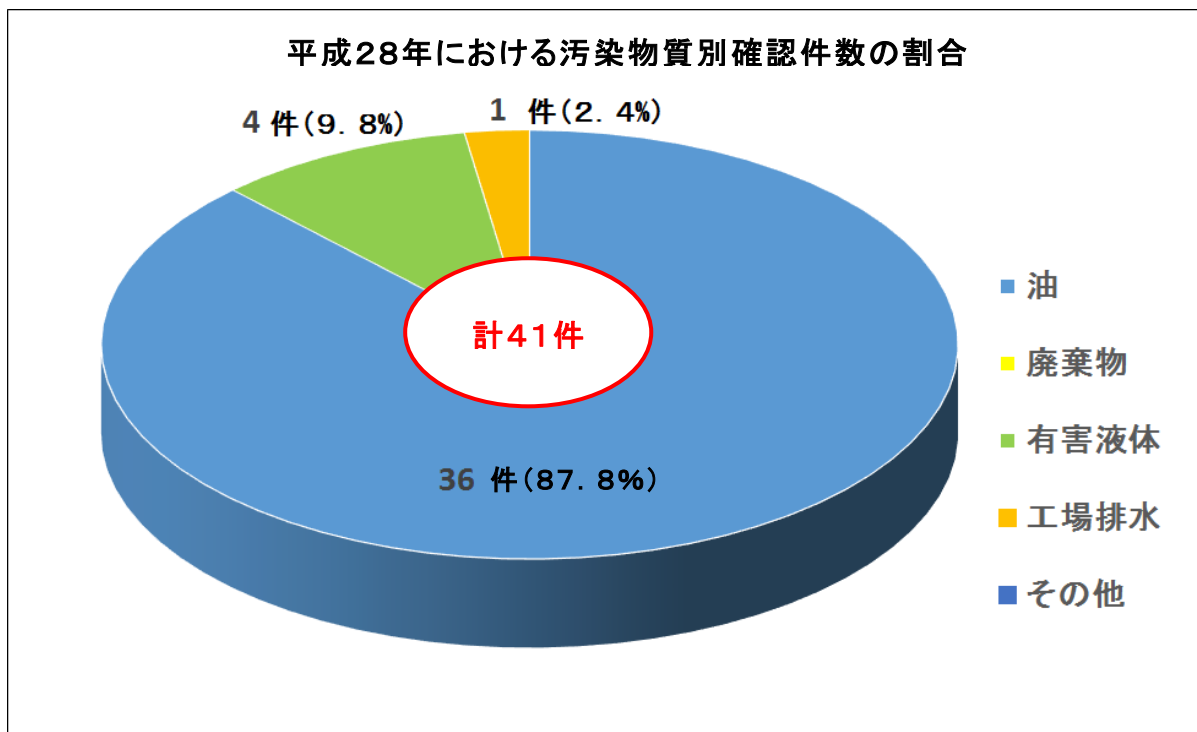
【今後の取組み】

平成28年の統計値も従前と同様に『油』による海洋汚染が約9割を占め、その排出原因が『船舶』における「バルブ開閉操作ミス」、「油タンクの残油容量不確認」、「ポンプ操作ミス」などといった人為的な要因が大半を占めていることが確認されました。

これまで巡視船艇や航空機により海洋汚染の監視取締りに加え、タンカーや漁船等への訪船指導等海洋汚染の未然防止にも取り組んできましたが、上述の状況を踏まえ、船舶に関係のある海事関係者に初歩的なミスに対する注意喚起を促す各種指導を行い、更なる海洋環境保全策に根気よく取り組んで参ります。

1 平成28年の海洋汚染の現状

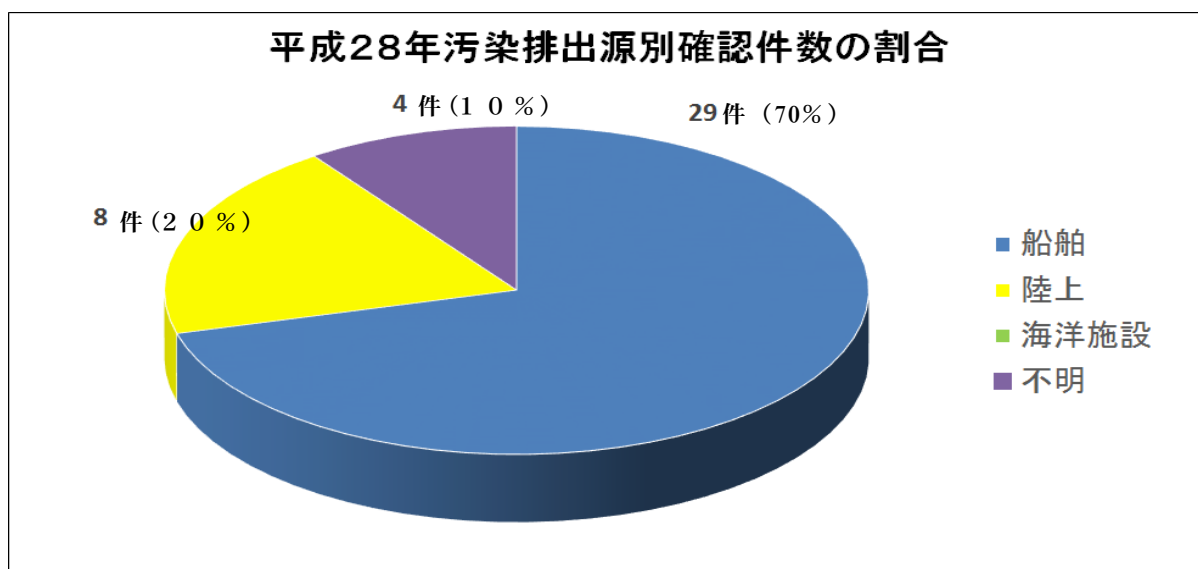
図1



2 排出源

- 平成28年は『船舶』からの排出が29件全体の7割を占め、『陸上』からの排出が8件全体の2割を占め、排出源が『不明』であったものが4件全体の1割を占める。

図2



3 排出原因

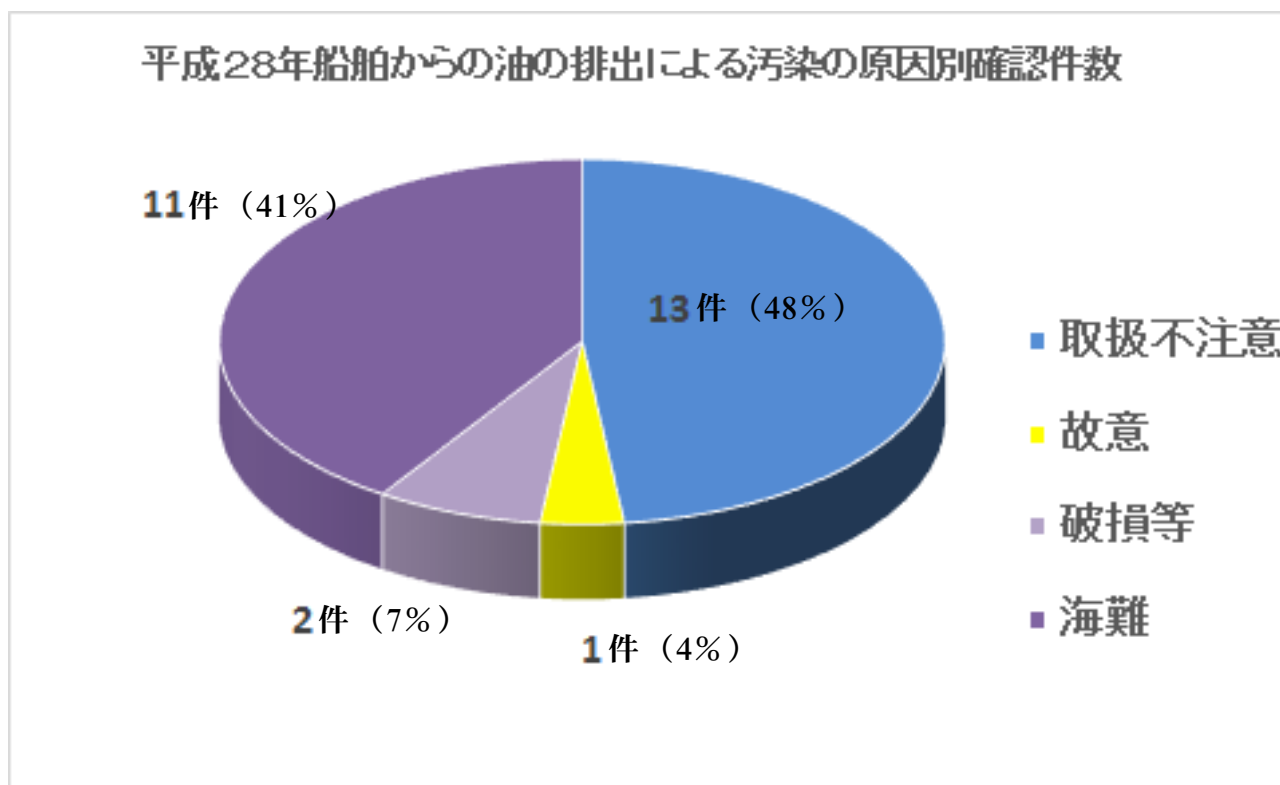
① 船舶からの油の排出による汚染の原因

- ・ 船舶の燃料給油時のバルブやポンプの操作ミスなどといった『取扱不注意』が13件(前年11件)、船底に溜まったビルジ(油性混合物)を『故意』に排出したものが1件(前年5件)と人為的要因によるものが全体の5割以上。
- ・ 油の配管等の老朽化による設備の『破損等』によるものが2件(前年3件)、『海難』によるものが11件(前年5件)。

② 船舶からの油以外の排出による汚染の原因

- ・ 有害液体物質の『取扱不注意』による排出が2件。

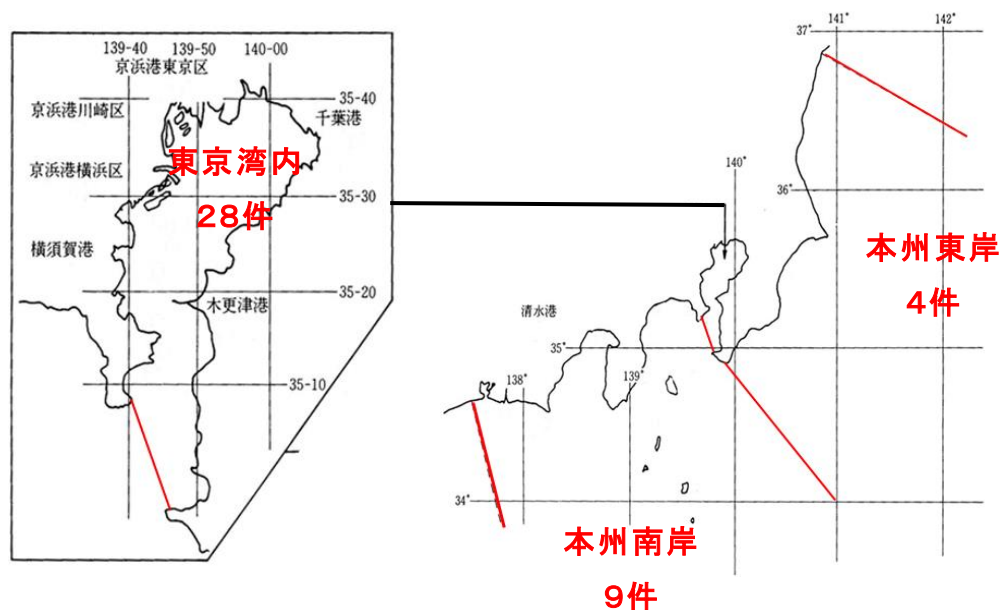
図3



4 発生海域について

海洋汚染の発生海域は、『東京湾内』が28件(前年25件)、『東京湾外』が13件(前年15件)。

図4



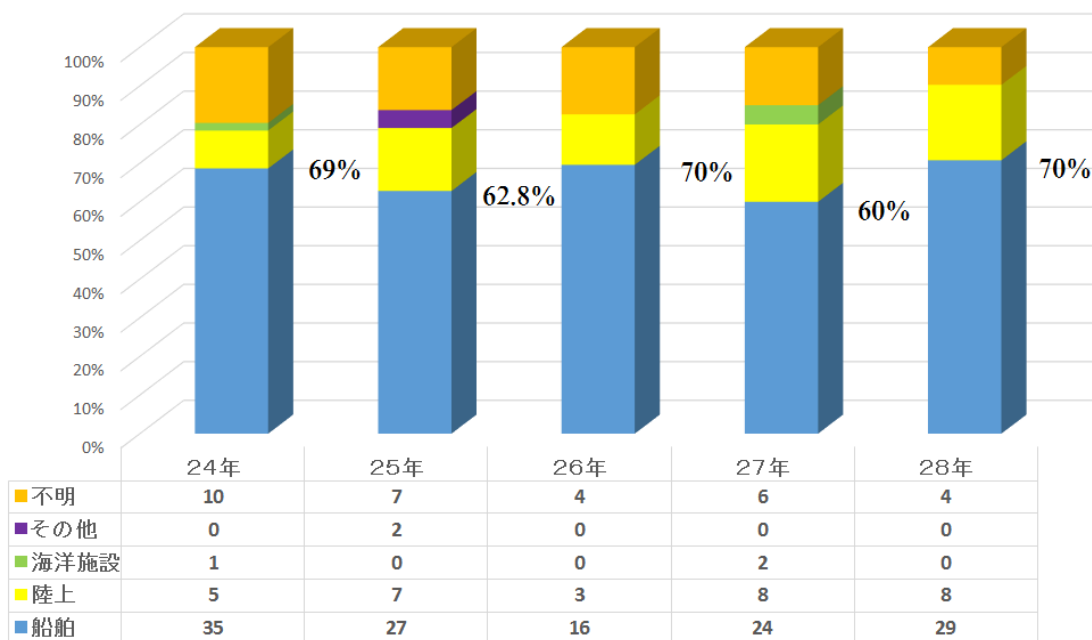
5 過去5年間の統計における傾向

平成28年の海洋汚染の傾向は、従前と同様に以下のとおり。

- ・「油」による汚染が汚染件数の約9割を占める。
- ・「船舶」からの排出による汚染件数が約7割以上を占める。
- ・「船舶」からの「油」による汚染件数は、『取扱不注意』『故意』といった人為的要因が約5割以上を占め主な排出原因である。

図5

過去5年間の排出源別確認件数の割合



過去5年間の船舶から油排出に係る原因別確認件数の割合

